

本 会 掲 示 板

第15回年会・合同シンポ

2002年1月11日(金)–13日(日), 東京大学物性研究所, 東葛プラザで開催。招待講演者16名, 施設報告13件, 口頭発表63件, ポスター発表238件(合計330件)であり, 参加者は556名であった。

また, 特別展示には39社(41小間)が出展した。

第15回総会

2002年1月11日(金), 東京大学物性研究所で開催。

出席者は84名, 有効委任状数88通であり, 定款第4章第28条により成立した。2002年度会長挨拶, 第6回学会奨励賞について, 名誉会員について, 2001年度事業報告, 決算報告, 2002年度学会組織, 事業計画, 編集方針, 行事活動方針, 渉外活動方針, 予算案が承認された。

第6回日本放射光学会奨励賞

■中尾裕則(1971年11月27日生)

(高エネルギー加速器研究機構 物質構造科学研究所)

・X線異常散乱, 共鳴散乱を用いた軌道秩序構造の研究。

■林 好一(1968年3月3日生)

(東北大学金属材料研究所)

・蛍光X線ホログラフィー法の開発とその微量不純物系への応用。

名誉会員

高良和武, 佐々木泰三, 富家和雄

第68回幹事会

2001年11月24日(土), 東大化学本館で開催。

各幹事の活動報告の他, 第6回学会奨励賞について, 名誉会員について, 合同シンポ見直しワーキンググループについて等を検討した。

第6回将来計画検討特別委員会

2001年11月27日(火), 東大化学本館で開催。

極紫外・軟X線高輝度光源計画に関する現状の問題点, および放射光研究の全体像に関する将来について等を検討した。

第52回評議員会

2001年12月1日(土), 東大化学本館で開催。

各幹事活動報告の他, 第6回学会奨励賞について, 特別委員会報告, 名誉会員について, 年会・合同シンポ見直し委員会について等を審議した。

第59回編集委員会

2001年12月7日(金), 名大VBLで開催。

Vol. 14, No. 5の評価, および Vol. 15, No. 1以降の編集方針につ

いて検討した。とくに次年度より年6回発行となるため, ページ数の削減について等を議論した。

第15回年会・合同シンポ第3回実行委員会

2001年12月19日(水), 東葛プラザで開催。

各委員の準備作業の経過報告, 各会場の確認, 当日の作業分担の確認等を検討した。

第7回将来計画検討特別委員会

2002年1月10日(木), 東大物性研で開催。

放射光グラウンドデザインの骨格, 個々の計画の取り扱い, 放射光利用研究推進のためになすべき「ソフトウェア」の内容, 報告書作成の具体的な分担等について等を検討した。

「年会・合同シンポ」見直し委員会

2002年1月10日(木), 東大物性研で開催。

合同シンポの意義, 主催団体と共催団体の参加者の差別化について等を検討した。

第53回評議員会

2002年1月11日(金), 東大物性研で開催。

総会議事について等を審議した。

第5回将来計画検討特別委員会議事録

日時: 2001年7月18日(水) 13:40~17:15

場所: 東京大学理学部化学5階会議室

出席者: 上坪(JASRI; 委員長), 太田(東大理, 学会会長), 尾嶋(東大工), 小杉(UVSOR), 下村(原研), 坂田(名大工), 宮原(都立大理), 小林(KEK-PF), 松下(KEK-PF), 柿崎(東大物性研), 鈴木(佐藤委員代理, 東大理), 河田(KEK-PF, 学会行事幹事, オブザーバー), 木下(東大物性研, 学会庶務幹事, オブザーバー), 西野(学会事務局)

欠席者: 菅(阪大基礎工), 渡辺(東北大多元研),

谷口(HiSOR), 藤井(東大物性研)

議事内容

1. 上坪委員長より, 今回第5回の会合で, 議論すべきことの提案があった。前回の終了時には, 引き続いてのグラウンドデザイン検討のための特別委員会を10月上旬ごろに開催することとしていたが, その後東大, 東北大, KEK 3者による検討会議における議論が当初予想されていた方向とは異なってきており, 現在さらに取東に向けた努力が続いていること, 委員長と太田会長が文部科学省を訪れた際の応答では, 科学技術基本計画の方針に沿った形で計画の推進が重要であることを示唆されたこと, などを踏まえて, 中間報告をまとめる必要があるとの認識が示された。今回は特に, 極紫外・軟X線高輝度放射光施設計画に関する提言に集中した審議を

行うこととした。

2. 松下委員より、3者による検討会議の状況が紹介された。現在にいたるまでまとまった結論は出ておらず、ワーキンググループを作って引き続き議論を続けていく予定であることが紹介された。又、尾嶋委員より、この間の文部科学省の意見や対応についても紹介された。
3. 上記の報告を踏まえ、今回の委員会では、上坪委員長の草案に基づき、極紫外一軟X線高輝度放射光施設計画に関する提言作成に向けて、より踏み込んだ議論を行うこととした。その際、文部科学省からも指摘されているように、科学技術基本計画の方針に沿った形での提言が重要であり、基礎科学の重要性、重点4分野(情報、ナノテクノロジー、生命科学、環境)との結びつきなどをアピールしながら、極紫外一軟X線高輝度放射光施設はぜひ必要であるという提言を作成することとした。
4. 提言作成にあたり、種々の討論を行った。まず、極紫外一軟X線高輝度放射光施設計画の実現が第一に優先されるべきこと、施設に求める性能のところでは、上記で示したサイエンスとその具体的な研究計画に照らして整合性のある記述をすることが重要であること、その一方で、PFやUVSORなど、既存施設の増強計画の必要性にも留意することを、数名の委員が分担して、より具体的な草案を作成し、持ち寄って、本提言をまとめることとした。又、科学技術基本計画策定にあたっている委員など、放射光分野以外の人たちへの働きかけについても議論された。
5. 河田学会行事幹事より、学会主催の、「日本放射光学会将来計画特別委員会中間報告会～21世紀の放射光施設は？(仮称)」開催に関して、プログラム案の紹介がなされ、本特別委員会の意見を伺いたいとの発言があった。議論の結果、本特別委員会でヒヤリングを行った、東大、東北大極紫外軟X線高輝度放射光源計画、名古屋大計画、佐賀県計画、PF、UVSOR、広島大及びSPring-8の現状と提案されている将来計画について紹介していただくほか、自由電子レーザーについても取り上げることとした。又、本特別委員会の、極紫外一軟X線高輝度放射光源計画に関する提言(中間報告)内容の紹介、今後、わが国全体の放射光将来計画のグランドデザインに関して検討すべき事柄、総合討論を行うこととした。開催時期として、10月上旬程度をめどとするように要望することとし、行事委員会詳細を検討していくこととした。又、会場は東大理学部化学の大講堂を使用することとした。
6. 木下学会庶務幹事より前回議事録(案)については、8月上旬までに修正コメントを寄せていただきたい旨依頼があった。その後は、承認されたものとみなしてこの議事録は学会ホームページに掲載することとした。

第6回将来計画検討特別委員会議事録

日時：2001年11月27日(火) 15：00～17：40

場所：東京大学理学部化学本館5階会議室

出席者：上坪(JASRI;委員長)、太田(東大理、学会会長)、尾嶋(東大工)、渡辺(東北大多元研)、小林(KEK-PF)、松下(KEK-PF)、柿崎(東大物性研)、北村(理

研)、若槻(KEK-PF)、雨宮(東大工)、木下(東大物性研、学会庶務幹事、オブザーバー)、西野(学会事務局)

欠席者：小杉(UVSOR)、下村(原研)、藤井(東大物性研)、菅(阪大基礎工)、坂田(名大工)、谷口(HiSOR)、宮原(都立大理)、佐藤(東北大理)、石川(理研)、河田(KEK-PF、学会行事幹事)

議事内容

1. 太田会長より、これまで5回の特別委員会を開催し、10月11日にシンポジウムを開催したことが報告された。さらに、極紫外・軟X線の高輝度光源計画に関しては、三者検討会議などの議論が継続されており、まだ結論は出ていないが学会としての一応の方向性は出せたと思っていること、今後まだ議論がなされていない部分を含め、放射光研究の全体像に関する将来について議論すすめていただきたいこと、そのために、光源、硬X線、生命科学分野から新たに、北村、雨宮、石川、河田、若槻の5委員に加わっていただいたこと、できれば3月頃、それが難しければ、5～6月頃をめどに、本委員会の報告書をまとめていただきたいことなどの発言があった。
2. 上坪委員長より、新委員に向けて、これまでの経緯の説明があった。今後、3月までに2回ぐらい会合を開き、足りない部分はメールでの議論を行いながら、各委員が分担して報告書の草案をまとめることにした旨発言があり、了承された。
3. 松下委員より、極紫外・軟X線の高輝度光源計画に関する、東大、東北大、物構研三者検討会議の経緯について、資料により報告がなされた。それに伴い、上坪委員長から、三者検討会議より、光源加速器仕様に関するレビュー委員会の開催が依頼されており、第1回は11月3日に開催されたこと、第1次補正予算では計画がスタートにならなかったが、文部科学省はこの計画を前向きにとらえており、この機会に是非計画がスタートさせられるよう、サポートをする方向で検討をしていきたいこと、12月1日に第2回のレビュー委員会が開催される予定であることが報告された。さらに、柿崎委員から、東大としては2次補正に望みを託しているが、状況は全く分からないこと、3者検討会議の結論を待って、光源仕様に関してどの程度の修正が可能か、人員をどうするのかなどについて検討していきたいとの補足説明があった。
4. 以上の報告を受け、上坪委員長より、当面、本特別委員会では、極紫外・軟X線の高輝度光源計画がスタートすることを想定した場合、特にKEK-PFの将来がどうなるかが特に重要な課題であり、テンポラリーなてこ入れの他に、その先をどうするのかを検討していただきたいとの依頼がなされた。なお、地方型計画の検討については、極紫外・軟X線の高輝度光源計画の推移を見ながら議論を進めていくこととした。
5. 松下委員より資料が配付され、PFが、1999年のPFシンポジウム以来、リング型(PFII, IIA)と、FEL型の計画をユーザーに紹介してきた取り組みを中心に、PFが考えている将来計画に関する説明があった。PFとしては多数を占めるX

線ユーザーを念頭に置いて計画を進める必要があると考えており、リング型、もしくは Energy Recovering Linac (ERL) のような案を考えているという紹介があった。

小林委員より、次の計画はコストダウンを深刻に考える必要があり、どこかを見切った計画にならざるを得ないことから、その面での議論をお願いしたいとの補足があった。また、そうした観点から、極紫外・軟 X 線の高輝度光源計画に関しても、大学の専用ラインを中心としたような共同利用ではなく、PF で進められているような完全にオープンな共同利用を目指すサポート体制をしっかりとしてほしいという希望が出された。

6. 以下、今後検討すべき課題について自由な討論がなされた。
- Spring-8 が硬 X 線をカバーし、一方で極紫外・軟 X 線の高輝度光源計画がスタートすると、PF の後継機を作る説得力のある論理を考える必要がある。
 - 地域型の計画がいくつか実現してくるのであれば、KEK は、ERL のようなトップを目指す施設を指向した方がよいのではないかと？
 - 極紫外・軟 X 線の高輝度光源計画がスタートし、VUV のグループのかなりのアクティビティがそちらに移ったり、地域型の計画がスタートすると、所内のグループのクリティカルマスが小さくなり、現状のような形での共同利用を行いながら研究をするスタイルは難しくなる。そうした意味で、積分強度も稼げ、ビームラインの数もそれなりにとれ、最先端の研究が行える可能性のある、ERL のような施設は魅力的である。PRT で建設した外部ビームラインを多く抱えたような施設になる可能性もあるのではないかと？
 - このような議論は物構研の、中性子、中間子グループを含めた将来計画とリンクしているので、そちらの動向も見極める必要がある。
 - 地域型計画でアンジュレータを中心とした強力 X 線が出せないのであれば、KEK-PF としては、そこを補う全国共同利用型施設を建設すべきであるということを考えている。
 - ERL に関しては、コストが安くすむといったメリットもある反面、まだ、MeV 領域の加速でしか実現しておらず、GeV 領域で大電流の加速を目指すにはまだまだ技術的に大きなブレークスルーが必要であろう。また、積分強度は確かに稼げるが、安定性は望めないで、その点についても検討が必要であろう。
 - どなたか、1月の放射光学会年会・合同シンポジウムの中で企画されている、将来計画特別委員会報告のセッションの中で、ERL の可能性などについて報告をしていただけないだろうか？
 - 日本は加速器、分光器から光が出てくるところまでは一流のレベルにある。その後の検出器についてはイメージングプレートや浜松フォトの検出器のような例もあるものの、その開発チームが手薄な印象を受ける。マンパワーも少なく、何とかならないだろうか？ こうした開発に関して予算をつける仕組みが必要ではないかと？ また、エンジニアの待遇改善、産業利用などの名目で、方策を考えられない

か？

- 大学に関しては定員削減の問題もあり、その問題を解決するのはなかなか難しい。
 - 現在、KEK は、振興調整費の援助を受け、時限付きではあるが、NHK と共同で X 線用の検出器を開発する計画を進めているが、なかなか、難しい側面もある。(この検出器はうまくいけば、回折、イメージングに大変有用になることを期待している。)
 - SPring-8, PF, UVSOR, 極紫外・軟 X 線の高輝度光源の、全国共同利用放射光施設全体をうまく連携して運営する方策はないだろうか？ アンジュレータの使い方 (シェア)、課題申請、課題審査、夏休み中の運転のシェアなど、地域性、各施設の都合など難しい問題もあるが、検討できないだろうか？
 - PF と SPring-8 では、定期的な協議を行っている。
 - 蛋白構造解析の分野では、共通フォーマットによる申請など、運営の連携を望んでいる人が多いが、そうでない人もいて夏にやる予定だった議論はまだ進んでいない。
7. 来年1月11日に予定されている年会・合同シンポジウムの、将来計画特別委員会報告のセッションでは、極紫外・軟 X 線の高輝度光源計画に関する報告、10年後に何が必要か (ERL のレビューなど) を中心に、上坪委員長、太田会長でプログラム案を作り、河田組織委員長、藤森プログラム委員長に報告することとした。
- 次回は1月10日頃、つくばか柏において、今回話題に上った課題を整理して議論を続けることとした。

第51回評議員会議事録

日時：2001年9月1日(土) 13:30~15:30

場所：東京大学化学本館5階会議室

出席者：石川哲也、植木龍夫、宇理須恒雄、大隅一政、大柳宏之、尾嶋正治、柿崎明人、上坪宏道、神谷幸秀、河田 洋(行事幹事)、木下豊彦(庶務幹事)、小林正典、古宮 聡、坂田 誠、佐藤 繁、田中健一郎、谷口雅樹、松井純爾、松下 正、圓山 裕、村上洋一、八木直人(会計幹事) 各評議員
太田俊明(会長)、曾田一雄(副編集委員長)、平谷篤也(渉外幹事)、西野(事務局)

欠席者：北村英男、小谷章雄、菅 滋正、中井 泉、難波孝夫、藤井保彦、宮原恒昱、村田隆紀

議事：

(審議事項)

1. 第49回評議員会で決定した通り、尾嶋正治評議員に議長をお願いした。
2. 第50回評議員会議事録(案)を承認した。
3. 木下庶務幹事より前回評議員会以降の入会申込者の一覧が提出され、正会員16名(うち学生10名)、および賛助会員2社の入会を承認した。さらに退会届(正会員14名、賛助会員2社)に関する報告があった。その結果、現在の会員数は正会員1,147名(うち学生86名)、賛助会員59社(65口)となった。
4. 尾嶋選挙担当評議員より次期評議員選挙開票結果に関する報

告があり、以下の通り承認した。

次期評議員 (任期: 2002.1.1-2003.12.31)

雨宮 慶幸 安藤 正海 太田 俊明 菊田 惺志
小杉 信博 坂井 信彦 佐々木 聡 下村 理
辛 埴 寿栄松宏仁 関 一彦 早川慎二郎
藤森 淳 水木純一郎 渡辺 誠

次期も引き続き評議員である者

(任期: 2001.1.1-2002.12.31)

石川 哲也 植木 龍夫 宇理須恒雄 大隅 一政
大柳 宏之 尾嶋 正治 神谷 幸秀 小谷 章雄
佐藤 繁 菅 滋正 難波 孝夫 宮原 恒昱
村上 洋一 村田 隆紀 八木 直人

5. 太田会長より第6回学会奨励賞選考に関する報告があった。
6. 放射光施設計画検討特別委員会のこれまでの議論の経緯について上坪委員長より説明があり、中間まとめとして「極紫外・軟X線高輝度放射光施設計画に関する提言」が提出された。記載事項に関して若干の議論があったが、これを原案通り承認した。なお、今後は最終まとめを3月末までには仕上げる方向で検討していくが、現在の委員構成では分野に偏りがあるので、X線関係の委員5名を拡大評議員の選挙で追加することにした。また、河田行事幹事からは、シンポジウム「21世紀の放射光施設は？」を10月11日に開き、特別委員会の中間まとめおよび今後検討すべきグランドデザインについて議論する予定であることが報告された。
7. 河田行事幹事より特別シンポジウムの準備状況に関する報告があった。
8. 木下庶務幹事より名誉会員・永年会員制度に関する幹事会での検討事項について、説明があった。これを受けて「永年会員制度を設けるより、むしろ若い人を増やす努力をするべきだ」「功績者を讃える為の制度なら、定款には名誉会員制度がある」等の意見があったが、引き続き検討していくこととした。
9. 太田会長より、年会・合同シンポ見直しに関して寄せられた各拡大評議員の意見について、説明があった。今後は、学会・各施設・各利用者団体でさらに検討していくことになるが、見直し作業には開催準備期間の制約があり、来年4月には結論を出さなければならないことを確認した。
10. 平谷渉外幹事より、表面科学会、物理学会、光イオン化国際ワークショップ、多元研、放射線プロセスシンポジウム実行委員会、先端加工機械技術振興協会からの協賛依頼、真空協会からの協力依頼に関する報告があり、これを承認した。

(報告事項)

1. 八木会計幹事より会費未納状況に関する報告があった。
2. 河田行事幹事より第15回年会・合同シンポの準備状況および開催要項に関する報告があり、ホームページを使った発表申込み要領等について説明があった。さらに、「財政支出に関する取り決め」については、支給基準を「会員特別講演・招待講演・学会奨励賞受賞者の懇親会費を有料から無料に、非会員招待講演者の交通費なしを実費支給に」訂正する旨を承認した。
3. 八木会計幹事より第15回年会・合同シンポの予算案が提出された。出席評議員より、会員を増やし企業展示収入に頼らな

い正常な運営を望む旨の意見があった。

4. 曾田編集副委員長より編集委員会での検討事項に関する報告があり、とくに次年度から年6回発行とすることについて、年間予算の関係で頁数を薄くする等の工夫が要るが、会員にタイムリーな情報を提供するためには是非、実現したい旨の説明があった。また、2003年度からは副委員長が次期の委員長になるシステムは廃止すると共に、編集幹事の任期は会長と同期にすることが説明され、それを了解した。
5. 平谷渉外幹事より学会ホームページの充実について、現在検討中である旨の説明があった。
6. 尾嶋評議員より、本学会がオブザーバーで参加している「日本技術者教育認定制度 (JABEE)」の最近の動向について報告があった。
7. 平谷渉外幹事より平成13年度科研費審査委員候補者を本学会から2名、推薦した旨の報告があった。
8. 平谷渉外幹事より、英国大使館科学技術部から届いた「名簿ラベル使用届」を規則に従って処理した旨の報告があった。(その他)
 1. 坂田評議員より、2008年国際結晶学連合大会 (IUCr) 開催地が来年正式決定なので、協力して欲しい旨の要請があった。
 2. 次回評議員会日程は、11月下旬から12月上旬をめどに改めて庶務幹事よりアンケートすることとした。

第52回評議員会議事録

日時: 2001年12月1日(土) 13:30~15:30

場所: 東京大学化学本館5階会議室

出席者: 石川哲也, 大隅一政, 尾嶋正治, 柿崎明人, 上坪宏道,
河田 洋(行事幹事), 木下豊彦(庶務幹事), 小谷章雄,
古宮 聡, 坂田 誠, 佐藤 繁, 菅 滋正, 谷口雅樹,
中井 泉, 藤井保彦, 松下 正 各評議員
太田俊明(会長), 曾田一雄(副編集委員長), 平谷篤也
(渉外幹事), 西野(事務局)

欠席者: 植木龍夫, 宇理須恒雄, 大柳宏之, 神谷幸秀,
北村英男, 小林正典, 田中健一郎, 難波孝夫,
松井純爾, 圓山 裕, 宮原恒昱, 村上洋一, 村田隆紀,
八木直人(会計幹事)

議事:

(審議事項)

1. 第49回評議員会で決定した通り、尾嶋正治評議員に議長をお願いした。
2. 第51回評議員会議事録(案)を承認した。
3. 木下庶務幹事より前回評議員会以降の入会申込者の一覧が提出され、正会員41名(うち学生29名)の入会を承認した。さらに退会届(正会員10名)に関する報告があった。その結果、現在の会員数は正会員1,178名(うち学生116名)、賛助会員59社(65口)となった。
4. 太田会長より第6回学会奨励賞について、選考委員会が4名の他薦応募者を審査し、2名の受賞対象者を推薦するに至った経緯に関する報告があり、本評議員会はこれを承認した。

中尾裕則/1971年11月27日生

(高エネルギー加速器研究機構物質構造科学研究所, 助手)

X線異常散乱, 共鳴散乱を用いた軌道秩序構造の研究

林 好一/1968年3月3日生

(東北大学金属材料研究所, 助手)

蛍光X線ホログラフィー法の開発とその微量不純物系への応用

5. 放射光施設計画検討特別委員会の上坪委員長より, これまでの委員会での議論の経緯が説明され, 拡大評議員の選挙により追加された5名の委員の紹介があった。また同委員会は今後, 放射光施設の将来のグランドデザインを検討し, 3月末までには「最終まとめ」を作成することが報告された。本評議員会はこれを承認した。
6. 太田会長より定款に在る名誉会員制度の初めての施行として, 高良先生, 佐々木先生, 冨家先生を推薦したい旨の提案があり, 出席評議員より, 評議員会への推薦の手続きについて意見があった。本評議員会としては今回はこの件を了承するが, 次回評議員会で推薦を承認し, 1月の年会の懇親会で「名誉会員証」をお渡しし, 先生方の功績を讃えることとした。「名誉会員証」の文案については, 太田会長に一任した。
7. 太田会長より, かねてより懸案となっていた年会・合同シンポジウム見直し委員会の委員名簿が提出され, 1月の年会で第3回目の会議を開く旨の説明があった。出席評議員より「何故, 見直しが必要なのか, 問題点を明確にすべきだ。」という意見があり, 登壇資格の問題などの意見が出たが, 前年度から継続して検討している事項でもあるので, 各委員にこれまでの会議資料を年内に送ることとした。
8. 木下庶務幹事より, 会員名簿が悪用されているという最近の拡大評議員会でのやり取りが報告された。種々の議論があったが, 古い名簿の廃棄については注意をするよう, 会誌などを通して会員に呼びかけていくこととした。
9. 平谷渉外幹事より, 大阪ニュークリアサイエンス協会, 表面科学学会, 結晶学会からの協賛依頼に関する報告があり, これを承認した。

(報告事項)

1. 八木会計幹事の代理で木下庶務幹事より, 会費未納状況に関する報告があった。
2. 河田行事幹事より, シンポジウム「21世紀の放射光施設は?」の開催報告があった。
3. 河田行事幹事より, 第15回年会・合同シンポの現在の発表申し込み状況, およびプログラム編成に関する報告があった。
4. 曾田編集副委員長より, 次年度から学会誌の発行回数を年6回にすることの意義, および年間予算との関係に関する説明があった。それを受けて, 「頁数を落としても内容を落とさないように。」「広告件数が減るのではないか。」などの意見が出た。また年会プログラムをWebだけではなく, 会誌にも掲載するかどうかについては, 状況を見ながら検討していくこととした。本評議員会は今後, 評議員会が常に発行状況を確認していくこととし, 年6回発行を承認した。
5. 平谷渉外幹事より学会ホームページについて, ネームサーバの置き場所の問題をクリアし, 実働する数名の渉外委員を設定し, 内外の放射光関係のシンポジウムや研究会の案内の掲示, 関連機関のホームページとのリンクなど, 年6回発行

の会誌を活用し積極的にアナウンスすることにより, 会員が使い易いホームページにするための検討を始めている旨の報告があった。

6. 尾嶋評議員より, 本学会がオブザーバーで参加している「日本技術者教育認定制度 (JABEE)」の最近の動向について報告があった。なお, 尾嶋委員には1年間, JABEE担当評議員としてご尽力いただいたので, 次年度より新担当者を選任することとした。
 7. 坂田評議員より, 2008年国際結晶学連合大会 (IUCr) 誘致について, 経過報告があった。また, 学術会議結晶研連が科研費審査部に提案している結晶学に関するキーワードの見直し案に関する説明があった。
 8. 平谷渉外幹事より平成14年度科研費補助金研究成果公開促進費 (B), (C) の公募に関する報告があった。
- (その他)
1. 次回評議員会日程は, 1月11日(金)12:00~13:00, 年会会場(東大物性研)で開催することとした。

会員異動

■第51回評議員会で承認

(正会員入会)

吉井 裕 (筑波大・物理工)
 脇田 高德 (東大物性研・軌道放射物性つくば分室)
 花島 隆泰 (東工大・総理工・材料物理学(学))
 宇田川 浩 (東工大・総理工・材料物理学(学))
 清水 教男 (東工大・総理工・材料物理学(学))
 松島 毅 (東大物性研(学))
 田口 幸広 (阪府大・院・工・数理工学)
 伊藤 拓 (京大・工・原子核工(学))
 水谷 竜典 (名大・院・工(学))
 中埜 吉博 (名大・工・結晶材料工学(学))
 三宅 康之 (神戸大・院・総合人間科学・人間環境(学))
 東谷 篤志 (阪大・院・基礎工・物性物理(学))
 岡 俊彦 (高輝度センター放射光研究所)
 中川 貴 (阪大・院・工)
 島雄 大介 (茨城県立医療大・院(学))
 河村 武 (三田市民病院)

(正会員退会)

鈴木 理 (産総研)
 大澤 宏充 (立命館大・放射光物理(学))
 細川 照夫 (NTT・LSI研)
 蓮井 智 (広大・院・理・物理学・光物性(学))
 木原 隆幸 (東大・院・工・応用化学・尾嶋研(学))
 呉 鎮浩 (東大・院・工・応用化学・尾嶋研(学))
 前野 克行 (東大・院・工・応用化学・尾嶋研(学))
 中園 晋輔 (東大・院・工・応用化学・尾嶋研)
 乃万 裕一 (東大・院・工・応用化学・尾嶋研)
 掛札 洋平 (東大・院・工・応用化学・尾嶋研(学))
 葛岡 義和 (東大・院・工・応用化学・尾嶋研(学))
 森原 敦 (広大・院・理・物理学・光物性(学))
 浦野 隆夫 (KEK 物構研)

桂 共太郎 (KEK 物構研)

(賛助会員入会)

ベシネー・ジャパン(株)
 (株)メレック

(賛助会員退会)

ゴードン・アンド・ブリーチ科学出版社
 日立造船(株)

会員異動

■第52回評議員会で承認

(正会員入会)

組頭 広志 (東大・院・工・応用化学)
 吉川 秀樹 (東大・工(学))
 持箸 晃 (分子研 UVSOR)
 高木 宏之 (東大物性研)
 合谷 太志 (広大・理・物理科学・粒子線科学(学))
 澤 博 (KEK 物構研)
 山口 聡 (富山大・院・理工(学))

(正会員退会)

佐藤 乙丸
 Liu Lijun (京大・院・理・化学(学))
 上村 税男 (東海大・開発工学)
 三木秀二郎 (立命館大・理工)
 星 岳志 (東芝セミコンダクター)
 金野 正晴 (フジタ・土木本部)
 徳永 史生 (阪大・院・理)
 木下 哲也 (ハリアンテクノロジーズジャパンリミテッド)
 山崎 拓 (東芝電興・セラミックス営業部)
 升島 努 (広大・医)
 加藤 利三
 城野 幹子 (三菱マテリアルシリコン(学))
 横井 一磨 (東大・工)
 園山 正史 (東京農工大・工)
 堀 良明 (奈良先端大)
 吉本 修 (名大・院・工)
 佐藤 道郎 (日本 SOR)
 加藤 昌平
 林 安德 (九大・工)
 笹野 守 (アトックス)
 永倉 一郎 (群馬大・教育)
 望戸 實 (ホンダエンジニアリング・研究開発部)
 武藤 彰英 (沖電気工業)

(正会員除籍)

藤崎 和声
 山口 正男 (日立エンジニアリング)
 宮崎 保光 (豊橋技科大・情報工学)

(賛助会員退会)

ソニー(株)フロンティアサイエンス研究所

2001年度事業報告

- 第14回総会/2001年1月13日 (広大理学部)
- 第14回年会・放射光科学合同シンポジウム
 /2001年1月12日-14日 (広大理学部)
- 第4回アジアフォーラム (広大理学部)
 /2001年1月15日-16日 (広大理学部)
- シンポジウム「21世紀の放射光研究施設は？」
 /2001年10月11日 (東大化学館)

■評議員会

- 第49回/2001年1月13日 (広大理学部)
- 第50回/2001年4月7日 (東大化学本館)
- 第51回/2001年9月1日 (東大化学本館)
- 第52回/2001年12月1日 (東大化学本館)

■幹事会

- 第64回/2001年1月6日 (東大化学本館)
- 第65回/2001年3月26日 (東大化学本館)
- 第66回/2001年8月10日 (東大化学本館)
- 第67回/2001年11月24日 (東大化学本館)

■編集委員会

- 第55回/2001年3月9日 (東大工学部)
- 第56回/2001年5月11日 (東大工学部)
- 第57回/2001年7月6日 (名大 VBL)
- 第58回/2001年9月7日 (名大 VBL)
- 第59回/2001年12月7日 (名大 VBL)

■学会誌発行

- 第14巻第1号/2001年2月28日
- 第14巻第2号/2001年4月30日
- 第14巻第3号/2001年6月30日
- 第14巻第4号/2001年8月31日
- 第14巻第5号/2001年11月30日

■2001年度会員名簿発行/2001年10月31日

■日本放射光学会将来計画検討特別委員会

- 第1回/2001年4月27日 (東大化学本館)
- 第2回/2001年5月18日 (JST 展示館)
- 第3回/2001年6月2日 (東大工学部)
- 第4回/2001年6月16日 (東大工学部)
- 第5回/2001年7月18日 (東大化学本館)
- 第6回/2001年11月27日 (東大化学本館)

■学会奨励賞選考委員会/2001年9月14日 (東大化学本館)

■第15回年会・合同シンポ：組織委員会

- 第1回/2001年5月29日 (東葛テクノプラザ)

■第15回年会・合同シンポ：プログラム委員会

- 第1回/2001年5月29日 (東葛テクノプラザ)
- 第2回/2001年9月10日 (東大理学部)
- 第3回/2001年10月4日 (東大理学部)

■第15回年会・合同シンポ：実行委員会

- 第1回/2001年5月29日 (東葛テクノプラザ)
- 第2回/2001年10月10日 (東葛テクノプラザ)
- 第3回/2001年12月19日 (東葛テクノプラザ)

■評議員選挙開票

第1回/2001年6月26日(東大工学部)

第2回/2001年8月1日(東大工学部)

■協賛

- [主催] 奈良先端大 物質創成科学/2001年1月15日-16日
NAIST 国際シンポジウム [表面電子・原子現象]
- [主催] 表面科学会/2001年1月16日
研究会「酸化物材料の薄膜化と表面評価技術」
- [主催] 大阪ニュークリアサイエンス協会/2001年1月24日
第10回放射線利用総合シンポジウム
- [主催] 計測自動制御学会/2001年6月8日
講習会「カラーマネージメントシステムのための測色技術の
基礎とその応用」
- [主催] 高圧力学会/2001年6月26日
セミナー「ダイヤモンドアンビルを用いた高圧実験技術」
- [主催] 表面科学会/2001年6月29日
2001年度第1回研究会「次世代のゲート絶縁膜」
- [主催] 物理学会/2001年7月19日-20日
セミナー「21世紀, 物理はどう変わるか」
- [主催] XAFS 研究会
/2001年8月6日-8日第4回 XAFS 研究会
- [主催] 真空協会
/2001年8月22日-25日第41回真空夏季大学
- [主催] JASRI, JAERI, RIKEN/2001年8月22日-26日
光イオン化国際ワークショップ
- [主催] 国際会議組織委員会/2001年10月30日-11月1日
第14回マイクロプロセス・ナノ工学国際会議
- [主催] 東北大多元研/2001年11月8日
第1回多元物質科学研究所発表会
- [主催] ALC '21/2001年11月11日-14日「ALC '21」
- [主催] 先端加工機械技術振興協会/2001年12月3日
講演会「機能性材料の3次元微細加工技術」
- [主催] シンポジウム実行委員会/2001年12月5日-6日
第9回放射線プロセスシンポジウム

■協力

- [主催] 真空工業会・真空協会/2001年9月12日-14日
VACUUM2001-真空展

2001年度決算報告書

2001年度収支計算書

自 2000年12月21日

至 2001年12月20日

1. 収入の部

(単位 円)

科 目	金 額	細 目
1. 正会員会費収入	5,883,000	
2. 学生会員会費収入	171,000	
3. 賛助会員会費収入	3,350,000	
4. 購読会員会費収入	254,000	
5. 会誌広告料収入	4,746,360	
6. 会誌販売収入	1,474,028	
7. 年会・合同シンポ収入	8,487,400	
8. 科研費補助金収入	0	
9. 受取利息	9,839	
収 入 の 部 合 計		24,375,627

2. 支出の部

科 目	金 額	細 目
1. 学会誌出版費	9,058,808	会誌印刷費 原稿料 発送手数料・郵送料
		7,191,707 557,500 1,309,601
2. 会員名簿制作費	904,605	会員名簿印刷費 会員名簿発送費
		631,731 272,874
3. 若手奨励賞副賞	100,000	2名×50,000円
		100,000
4. 年会・合同シンポ支出	7,494,056	開催費 委員会旅費 事務管理費
		6,226,231 413,650 854,175
5. 会議費	1,601,654	会場費 旅費交通費
		99,204 1,502,450
6. 通信費	1,092,157	電話料金・郵送料
		1,092,157
7. 事務所維持費	132,300	事務所賃貸料 水道光熱費
		126,000 6,300
8. 会員業務費	934,757	名簿管理費 印刷費 振込手数料・運賃
		276,185 272,100 386,472
9. 会計業務費	460,000	税理士顧問料
		460,000
10. 一般事務管理費	1,163,055	会計管理費 事務管理費
		252,000 911,055
11. その他事務経費	707,664	事務用品費 消耗品費 給料手当 事務局交通費
		11,301 554,993 70,000 71,370
支 出 の 部 合 計		23,649,056

3. 収支計算の部

当 期 収 支 差 額	726,571
-------------	---------

2001年度資産負債明細

2001年12月20日現在

1. 資産の部

(単位 円)

科 目	金 額	細 目	
1. 現金及び預金	17,226,446	手持現金残高	205,841
		郵便振替残高	5,789,154
		三和銀行普通預金残高	3,837,739
		三井住友銀行普通預金残高	7,393,712
2. 会費未収金	811,245	正会員会費未収残高	447,000
		学生会員会費未収残高	11,000
		賛助会員会費未収残高	0
		購読会員会費未収残高	10,000
		会誌販売未収残高	343,245
3. 広告費未収入金	899,360		
4. 学会誌在庫高	403,440	学会誌 (Vol. 11, No. 1～ No. 5 328冊)	403,440
5. 電話加入権	70,000		
6. 什器備品 (償却済) 会長用 FAX 償却累計 (268,109)	14,111		
資 産 の 部 合 計			19,424,602

2. 負債の部

科 目	金 額	細 目	
1. 会費前受金	7,811,000	正会員会費	4,782,000
		学生会員会費	129,000
		賛助会員会費	2,900,000
2. 未払金	0	消耗品費	0
負 債 の 部 合 計			7,811,000

3. 剰余金の部

科 目	金 額	細 目	
1. 前期繰越剰余金	10,887,031		
2. 当期収支差額	726,571		
剰 余 金 の 部 合 計			11,613,602

剰余金処分計算書

前期繰越剰余金	10,887,013円
当期収支差額	726,571円
次期繰越剰余金	11,613,602円

上記の通り報告致します。

2001年12月31日

日本放射光学会2001年度 会 長 太田 俊明
 会計幹事 八木 直人

2002年度予算案

自 2002年1月1日

至 2002年12月31日

1. 収入の部

(単位 円)

科 目	予 算	摘 要
1. 正会員会費収入	6,000,000	¥ 6,000円×1,000
2. 学生会員会費収入	200,000	¥ 2,000円× 100
3. 賛助会員会費収入	3,250,000	¥50,000円× 66口 (59社)
4. 購読会員会費収入	300,000	¥15,000円× 20
5. 会誌広告収入	4,500,000	年間契約23社/毎号平均25社掲載/6回発行
6. 会誌販売収入	1,000,000	別刷代金, その他刊行物販売収入含む
7. 年会・合同シンポ収入	7,876,000	第15回年会・合同シンポ
8. 前期繰越金	11,613,602	
合 計	34,739,602	

2. 支出の部

科 目	予 算	摘 要
1. 学会誌出版費	8,200,000	会誌印刷費 (80頁×6回) 6,000,000 原稿料 700,000 発送手数料・郵送料 1,500,000
2. 学会奨励賞副賞	100,000	第6回学会奨励賞 (2名)
3. 年会・合同シンポ支出	6,997,000	開催費 5,757,000 委員会旅費 400,000 事務管理費 840,000
4. 会議費	1,700,000	会場費 100,000 旅費交通費 1,600,000
5. 通信費	1,200,000	電話料金, 郵送料
6. 事務所維持費	132,300	事務所貸借料 (10,000円×12) 120,000 水道光熱費 (500円×12) 6,000 消費税 (5%) 6,300
7. 会員業務費	1,184,700	名簿管理費 300,000 印刷費 (封筒など) 484,700 振込手数料, 運賃 400,000
8. 会計業務費	460,000	税理士顧問料
9. 一般事務管理費	1,552,000	会計管理費 (20,000円×12) 240,000 消費税 (5%) 12,000 事務管理費 1,300,000
10. その他事務経費	900,000	事務用品費 100,000 消耗品費 (コピー・カウント料金) 600,000 給料手当 100,000 交通費 100,000
11. シンポジウム開催費	700,000	
12. 次期繰越金	11,613,602	
合 計	34,739,602	

日本放射光学会2002年度学会組織**■会長** (任期: 2001.1.1—2002.12.31)

太田 俊明 (東大院理)

■幹事 (任期: 2001.1.1—2002.12.31)

庶務幹事 木下 豊彦 (東大物性研)

会計幹事 八木 直人 (JASRI)

編集幹事 曾田 一雄 (名大院工) (2001.4.1～)

行事幹事 河田 洋 (KEK-PF)

渉外幹事 平谷 篤也 (広大院理)

■評議員 (任期: 2001.1.1—2002.12.31)

石川 哲也 (RIKEN)

植木 龍夫 (JASRI)

宇理須恒雄 (分子研反応動力学)

大隅 一政 (KEK-PF)

大柳 宏之 (産総研光技術)

尾嶋 正治 (東大院工)

神谷 幸秀 (KEK 加速器)

小谷 章雄 (東大物性研)

佐藤 繁 (東北大院理)

菅 滋正 (阪大基礎工)

難波 孝夫 (神戸大院自然)

宮原 恒昱 (都立大理)

村上 洋一 (東北大院理)

村田 隆紀 (京教大)

八木 直人 (JASRI)

■評議員 (任期: 2002.1.1—2003.12.31)

雨宮 慶幸 (東大新領域)

安藤 正海 (KEK-PF)

太田 俊明 (東大院理)

菊田 惺志 (JASRI)

小杉 信博 (分子研 UVSOR)

坂井 信彦 (姫工大)

佐々木 聡 (東工大応セ研)

下村 理 (原研関西研)

辛 埴 (東大物性研)

寿栄松宏仁 (JASRI)

関 一彦 (名大物質科学国際センター)

早川慎二郎 (広大院工)

藤森 淳 (東大新領域)

水木純一郎 (原研関西研)

渡辺 誠 (東北大多元研)

■編集委員 (任期: 2001.1.1—2002.12.31)

足立 純一 (KEK-PF)

梅谷 啓二 (JASRI)

加藤 政博 (分子研 UVSOR)

木村 洋昭 (JASRI)

木村 正雄 (新日鐵)

小西 啓之 (原研関西研)

古宮 聡 (JASRI)

◎曾田 一雄 (名大院工)

高田 昌樹 (名大院工)

高橋 和敏 (分子研 UVSOR)

中川 敦史 (阪大蛋白研)

生天目博文 (広大 SR センター)

柳原 美廣 (東北大多元研)

横山 利彦 (東大院理)

渡部 孝 (コベルコ科研)

■行事委員 (任期: 2001.1.1—2002.12.31)

五十嵐教之 (KEK-PF)

奥田 太一 (東大物性研)

帯名 崇 (KEK-PF)

◎河田 洋 (KEK-PF)

岸本 俊二 (KEK-PF)

木村 滋 (NEC システムデバイス・基礎研究本部)

三橋 利行 (KEK-PF)

■渉外委員 (任期: 2001.1.1—2002.12.31)

渉外委員会設置予定。

■将来計画検討特別委員会

雨宮 慶幸 (東大新領域)

石川 哲也 (RIKEN)

太田 俊明 (東大院理)

尾嶋 正治 (東大院工)

柿崎 明人 (東大物性研)

◎上坪 宏道 (JASRI)

河田 洋 (KEK-PF)

北村 英男 (RIKEN)

小杉 信博 (分子研 UVSOR)

小林 正典 (KEK-PF)

坂田 誠 (名大院工)

佐藤 繁 (東北大院理)

下村 理 (原研関西研)

菅 滋正 (阪大基礎工)

谷口 雅樹 (広大 SR センター)

藤井 保彦 (東大物性研)

松下 正 (KEK-PF)

宮原 恒昱 (都立大理)

若槻 壮市 (KEK-PF)

渡辺 誠 (東北大多元研)

◎委員長

■合同シンポジウム見直し委員会

SPring-8 菊田 惺志 (JASRI)

坂田 誠 (名大院工)

PF 松下 正 (KEK-PF)

雨宮 慶幸 (東大新領域)

UVSOR 小杉 信博 (分子研 UVSOR)

渡辺 誠 (東北大多元研)

SuperSOR 柿崎 明人 (東大物性研)

学会
尾嶋 正治 (東大院工)
太田 俊明 (東大院理)
木下 豊彦 (東大物性研)
平谷 篤也 (広大院理)

2002年度の主な事業計画

■学会誌発行

年6回発行。解説、トピックス、実験技術、研究会報告、海外情報、新博士紹介、動向、談話室、座談会、本会掲示板、放射光施設案内、お知らせ等を掲載。

■将来計画検討特別委員会「報告書」

■「年会・合同シンポの見直し」委員会

■シンポジウム「21世紀の放射光施設のグランドプラン」(仮称)

開催日/2002年6月

場所/未定

■講習会「放射光ユーザーのための加速器及び光学系講座」(仮称)

開催日/2003年?月

場所/未定

■「第16回日本放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウム」

開催日/2003年1月予定

場所/SPring-8

■第7回学会奨励賞授与

■ホームページの拡充・整備

■協賛

・[主催] 日本表面科学会関西支部

研究会「DLC技術の最前線」/2002年1月25日

・[主催] 大阪ニュークリアサイエンス協会

第11回放射線利用総合シンポジウム/2002年1月25日

・[主催] 日本結晶学会

講習会「粉末X線解析の実際」/2002年2月4日

・[主催] 日本分析化学会X線分析研究懇談会

講習会「粉末X線リートベルト解析」

/2002年2月5日-8日

在庫書籍紹介

各書籍の内容につきましては、学会ホームページ
(<http://www.ijjnet.or.jp/JSSRR/>) をご覧下さい。

ご購入方法：申込書に必要事項をご記入の上、学会事務局まで FAX または E-MAIL にてご送信ください。

申込先：日本放射光学会事務局

TEL：03-5950-4896 FAX：03-5950-1292

E-MAIL：jssrr@kk.ijj4u.or.jp

在庫書籍購入申込書 FAX: 03-5950-1292

書籍名：

冊数：

申込者名：

送付先：〒

TEL

ご請求先：(お申込者と異なる場合、ご記入ください。)

●Topical Symposia Synchrotron Radiation Part 1
Status and Prospects of Compact Synchrotrons
— May we expect their turn for lithography? —
Jan. 29-30, 1991 in Tsukuba ¥2,000

●中型放射光施設計画に関する調査報告書
1991年4月 ¥2,000

●放射光科学講習会

—放射光リングからの高輝度X線、紫外線の利用—
平成4年5月9日 仙台市民会館 ¥2,000

●放射光フォーラム'93 放射光が拓くミクロの世界
平成5年1月22日 学習院大学百周年記念会館 ¥2,000

●放射光フォーラム'93 界面の世界に"光"をあてる!
平成5年11月5日 東京大学山上会館 ¥2,000

●SYNCHROTRON RADIATION FACILITIES
IN ASIA May.13.1994 in Kobe ¥2,000

●Proceedings of the International Workshop
Generation and Application of Coherent X Rays
Edited by Shigeru YAMAMOTO (KEK-PF)
Feb.29-Mar.1,1996 in KEK, Tsukuba ¥2,000 + 送料 ¥500

●放射光フォーラム'94 放射光化学の最先端
平成6年12月5日 東京工業大学百年記念館 ¥2,000

●放射光学会10周年フォーラム
放射光によって映し出される世界
1998年10月30日 学習院大学 ¥2,000

●日本放射光学会シンポジウム資料集
「21世紀の放射光研究施設は？」
2001年10月11日 東京大学(本郷) ¥2,000

●第15回日本放射光学会年会・合同シンポジウム予稿集
2002年1月11-13日 東京大学物性研究所, 東葛707°ラ
¥2,000